はじめに

本書の目的

本書は、日本語教育の方法や日本の文化・社会に関する研究を行っている東京外国語大学国際日本研究センターによる「国際日本研究」の入門書です。国際日本研究は日本国内に閉じた一方向からの視点ではなく、外からの目を意識し、多様な関心や視点を反映した新しい「日本研究」を目指したものです。基礎教養（日本の伝統・習慣）を踏まえたうえで「、ステレオタイプ」に語られる日本観とは異なる日本の姿を描くことを目指しています。さらに、さまざまな日本の個性――規範的なことと多様性、普遍的な部分と個別的な部分――を盛り込んだものです。ステレオタイプの日本像を意識したうえで、日本を異化・複数化するための多様な切り口を用意しました。その意味で、「日本をたどりなおす」ものだといえます。そうした目的のもとで国際日本研究にふさわしいテーマ、トピック 29 を 精査して、各分野の現在の第一線の研究者が本文を書き下ろし、また、外部の専門家に直 接インタビューした内容をまとめました。内容は人文科学を中心に、言語・文学・文化・ 社会・歴史から構成され、東京外国語大学の特色と国際日本研究の水準を意識できるよう なものになっています。 本書は、日本に関する最新の研究をまとめた本文が中心となっていますが、本文を読ん で理解するだけではなく、学習者一人一人が自分の視点、意見を持ち、それを表明するこ と、議論することも一つの目的です。そして、そのテーマを深く考え、調べることを通 じ、成果を発表することが期待されます。日本の現状を知るだけでなく、同様のトピッ ク、テーマ、問題のそれぞれの国や地域での状況を改めて考えるためのきっかけとして 使っていただきたいと考えています。いわば、日本を自分を映し出す「鏡」にして、自ら を振り返る契機としていただきたいということです。 本書は、主に日本語を外国語として学習している日本語を母語としない方が日本語を勉 強すると同時に、国際日本研究の入り口に立てるようにと意図されたものです。本文を読 んで理解するだけではなく、読んだことで教師、学習者一人一人が自分の視点、意見を持 ち、それを表明することが目的であり、クラスで学習する場合、そのなかでの議論を期待 しています。さらに、そこで得た新しい視点でテーマを深く考え、自ら主体的に調べるこ とを通じ、成果を発表することが期待されます。その意味で、発信が重要な意味を持って

います。本書は、日本の現状を知るだけでなく、同様のトピック、テーマ、問題について、それぞれの国や地域での状況を改めて考えるためのきっかけとして使っていただきたいと考えています。「発表の方法」では、各章にスピーチ、ブック・レポート、ポスター発表、ディベート、ディスカッション、プレゼンテーションなどの形で口頭での発表を促すよう設定されています。口頭発表の評価、レポートの書き方、発信の前提としての調査の方法についても挙げてあります。 本書は、日本語を母語としない方々を最初の読者対象として考えていますが、日本語を母語とする方々にも自らの足元である日本について考え、「日本をたどりなおす」ために読んでいただきたいと思います。また、本書を読んだ後の発表、発信は、日本語母語話者にも必要なものだと考えます。

29 のテーマの選択にあたっては、留学生あるいは海外で日本を学ぶ学生たちが知りたいと思っているトピックを反映するように心がけました。それは、東京外国語大学で留学生に教えている教員、あるいは研究協定を結んでいる海外の大学の教員に対するアンケートやインタビューにもとづいています。「宮崎駿」「日本人の宗教観」「天皇・天皇制」「日本国憲法」などは関心の高いトピックでした。海外の人々が日本のどこ・何に興味をいだいているかがうかがえます。

…◆…◆… 本書の内容 …◆…◆…

本書はまず、日本を外から眺めた視点を提示するものとして、留学生による座談会から始まります。各章の内容に関連した留学生の意見は各章の前にもあります。 第１章は身近な言葉についてです。日本語を学習している方々にとっては学習の対象である日本語について、客観的に眺めたり、また、他の言語との比較から見た日本語の姿を見たり、母語との比較の視点で考えたりすることができます。日本語母語話者にとっては、毎日使っている言葉をあらためて見直す機会になります。特に外国語との比較という視点は新しいものかもしれません。 第２章は、日本語を使った芸術ともいえる文学探索です。古典や現代の文学で日本を代表するようなもの、日本の文学といえば挙げられるようなものについて取り上げています。取り上げた文学作品について、あるいは同じようなジャンルの外国文学についても考えてみてください。日本で有名な文学作品が外国にルーツがあったり、それが他の国にも広がりを持ったりしていることがわかると思います。

続いて第３章では、現在海外で人気のある日本文化についてさまざまな側面から考えます。伝統文化、ポップカルチャー、世界中にファンのいるアニメ、そして、文化を伝える翻訳についても考えます。「ニホン」「ブンカ系」など、通常は漢字書きにされるものをあえてカタカナ書きにしたのは、漢字で表現すると掌からこぼれ落ちてしまうものがあるからです。つまり、漢字で示される場合につきまとうステレオタイプを越え、より軽やか な、現代風の、特別の、といった意味合いを込めて使っていることを示しています。 後半の3章は社会、歴史に関するものです。日本の現在がどこから、どのような過程を 経てきたものか、近代から現代にかけての歩みを背景に考えようとするものです。後半も 言葉に関係する章から始まりますが、言葉そのものを扱っている第１章とは異なり、第４ 章では、日本社会の中での言葉のあり方、日本国内における言葉の多様性に焦点が当てら れています。日本語を学ぶ人々についての物語もあります。 続く第５章は、日本を知るうえで避けて通れない、天皇制、宗教、憲法などの問題を考 えます。この問題を考えるうえでは歴史的な観点、そして、日本を外から見る視点が欠か せません。重い、むずかしい問題ではありますが、知ってもらいたい、考えてもらいたい テーマとして選びました。

最後の第６章は、現在日本で生活する人々の暮らしのなかの問題を扱っています。教 育、食糧問題、労働問題やジェンダーに関する問題、そして忘れられない 3.11 東日本大 震災のその後をめぐる物語もあります。どれも今日的なテーマですが、ここに至るまでの 歴史を踏まえた考察になっています。現代の日本を知るために避けられないテーマでしょう。

日本を考える、日本を「たどりなおす」ための問題、テーマを考えてみたら 29 になりました。この 29 の本文を使って、読者一人一人に日本を「たどりなお」してほしいということから「29 の方法」と名づけました。29 という一見まとまりのない数は、「国際日本研究入門」はこれで完結するものではなく、今後さらに広がっていく可能性を持つものとして考えていることを示しています。

目次

はじめに …… 3
プロローグ　留学生から見た日本 …… 12

第1章 日本語ってどんな言葉？

1. あなたは日本語の文法を知っていますか　早津恵美子 …… 16
2. 日本語にはなぜ挨拶表現が多いのか　坂本惠 …… 20
3. 「すみません」の言外の意味　谷口龍子 …… 24
4. 依頼のEメール
   三宅登之／降幡正志／高垣敏博／成田節／早津恵美子／谷口龍子 …… 28
   日本語　英語　中国語　インドネシア語　スペイン語　ドイツ語

発表の方法　スピーチ …… 42

第2章 人間と文学を語る

1. 恋を歌う―古典和歌の豊かな森から―　村尾誠一 …… 46
2. 現代俳句　世界の切り取り方　菅長理恵 …… 50
3. 夏目漱石と近代日本　柴田勝二 …… 54
4. 村上春樹と東アジア　柴田勝二 …… 58
5. アジアに広まった怪異小説　川口健一 …… 62

発表の方法　ブック・レポート …… 66

第3章 ニホンのブンカ系

1. カーティス・パターソン―箏曲家インタビュー― 有澤知乃 …… 70
2. 日本のポピュラー・カルチャー 大岡淳／友常勉 …… 74
3. 清志郎、原発、お月さま 橋本雄一 …… 80
4. アニメ映画に吹く風―宮崎駿の仕事― 今村純子 …… 84
5. 翻訳文化と日本語 山口裕之 …… 88
発表の方法 ポスター発表 …… 92

第4章 日本の中のいろいろなコトバ

1. 国語と日本語 前田達朗 …… 96
2. 標準語と方言 前田達朗 …… 100
3. 障害者とリテラシー ましこひでのり …… 104
4. 二風谷におけるアイヌ語・アイヌ文化の継承
蓜野志朗／友常勉 …… 108
5. ドナルド・キーンが学んだ長沼直兄の日本語教科書
河路由佳 …… 114
発表の方法 ディスカッション …… 118

第5章 戦後日本の枠組み―天皇、憲法、東アジア―

1. 日本社会と天皇 友常勉 …… 122
2. 日本の宗教と国家神道 島薗進／友常勉 …… 126
3. 幸徳秋水と現代世界―戦争、庶民、アジア― 橋本雄一 …… 130
4. 戦後レジームと日本国憲法 谷和明 …… 134
5. 東アジアと冷戦構造―敗戦と占領のイメージから― 岩崎稔 …… 138
発表の方法 ディベート …… 144

第6章 現代日本の暮らしと文化

1. 「教育の機会均等」とは何か　岡田昭人……148
2. 米からコメへ―日本社会のなかの米―　野本京子……152
3. 東日本大震災後の集落の暮らし―丸森の町から―　野本京子……156
4. 高度経済成長とサラリーマン文化　山口裕之……160
5. 戦後日本の経営とジェンダー　浅川雅己／友常勉……164
発表の方法　プレゼンテーション……168

発表の評価の目安……170
調査の方法……176
巻末資料……180

おわりに……186
執筆者一覧……188

本文イラスト 山口愛 装幀・本文デザイン　小塚久美子

プロローグ

留学生から見た日本

日本をたどりなおすために、まず、外からの目で日本を見直してみよう。日本語、 日本文化を勉強して日本に来ている留学生数名に、日本の印象、滞在してわかったこ と、来日前とは異なる印象、などについて自由に語ってもらった。

「日本」や「日本人」に対する印象（来日前と来日後）

ワンダ：

日本のお店に行くのは楽しいね。「ありがとうございました。またお 越しくださいませ」なんていろいろと優しい言葉をかけられ歓迎されて いるみたいで気持ちがいい。買わなくても怒られないし、学生でもばか にされないし（笑）、お客様は神様です、みたいな。

アンドレ：

買いたいものがなかったら別のお店まで紹介してくれる。逆に客のほ うが態度が悪いね。店員があいさつしているのに、ほとんどの客は何の 返事もしない。

ボヤン：

日本は、自動車、電化製品から鉄道や流通のシステムに至るまで完成 度が高く、人々がちゃんと仕事をしているとか、日本のすべてによい印象がありましたが……。来日してみると、老人や妊婦（にんぷ）が電車に乗ってきても寝たふりをして席を譲らない人が多いとか、困っている人に関わらないようにする人が多いようですね。私の国では、バスに老人が乗ってくると、運転手が呼びかけ、乗客は必ず席を譲るけど。日本人はみんな疲れていて周囲に気を配る余裕がないようですね。家族や組織など自分が属する範囲だけの平和や利益を優先する傾向もあるような気がします。

ラナ：

組織において上下の権力構造がはっきりしているという印象は、来日 後も変わりません。以前、通訳の会社で働いていたのですが、知識や経 験がある部下のほうが正論を言っても、上司が聞き入れてくれなかった ことがありました。

オラ：

日本人の間でも所属や出身で上下をつける人も多いね。いわゆる一流大学を卒業した人の中には初対面の人に対して、名前より先に学歴や出身大学を聞いてから態度を変える人もいる。

ラナ：

日本人同士の上下や親疎(しんそ)だけではなく、民族のウチソト、つまり民族区別とでもいうような感情があるような気がします。東京外国語大学の学生は、けっこう外国人に慣れていて、留学生も同じ外大生として扱ってくれるけど、一旦、大学の外に出ると、一般の日本人には、外国人はいつでも外の人間というふうに見られていると思います。「あなたは日本人じゃないから、わからないね」とか「ここは日本だから」とかよく言われます。

それに、いわゆる「恥の文化」なのか、ある問題が生じたときに表面だけは繕(つくろ)おうとする姿勢がさまざまな状況で見られます。たとえば、日本では、自動車事故が起こってもあまりけんかにならないのは、言い合いが恥ずかしいと思うからでしょうが、私の国ではストレス発散のためにけんかをしても、その後は、両者が公平に修理費を支払おうとします。

ジョージ：

周囲と同じことをするのが美徳とされてきているのは昔も今も変わらないみたいだね。260 年以上も、徳川幕府(とくがわばくふ)に守られてきたから、自分自身の生き方なんて真剣に考えたことがないんだろう。民主主義や人権も欧米からの借り物で完全に根づいていないし、時の流れに身を任せ……って感じ。よく「水に流す」という言葉が使われるが、何が起きても起こされてもすべて「水に流して」これまでやってきたんじゃないかな？

オラ：

海外には、日本好きな人、たとえば私の周りの村上春樹(むらかみはるき)ファンなんかは日本や日本人に対して特殊なイメージを抱いているような気がする。政治、メディアあるいはサブカルチャーの影響を受けたりして、それぞれの国や人が日本や日本人に対して日本幻想というか勝手なイメージを抱いているのかもしれない。

留学生から見た日本　日本語について

アンドレ：

日本語は敬語がむずかしいね。私の国では尊敬語は使わないし、教員 と生徒の上下関係もはっきりしていない。私の学生は私のことをファー ストネームで呼ぶし、首相も愛称で呼ばれる。日本では尊敬語を使うか らといって尊敬しているとは限らないけど、尊敬語はなくても表情や態 度で相手を尊敬していることは示せる。

オラ：

カタカナ語が多すぎると思う。「ルックス」なんて言わずに「外見」 でいいのに。それに、カタカナ語を英語と勘違いしている人が多い。も ともとの意味を知らずに外国人の前で使って、周囲から笑われているの に気がつかない人もいるのよね。

第1章

日本語ってどんな言葉？

日本語を学ぶなかでみなさんは、日本語のこんなところが面白い、なぜこんな表現をするのか不思議だ、理解できない、日本では日常的に使われているのに自分には使いこなしにくい単語や言い回しがある、といったことを感じることがあるのではないでしょうか。こういった感覚は、どこから、そして、なぜ生じてくるのでしょう。母語や自身の知っている他の言語と日本語とを無意識に比べているのでしょうか。日本語ってどんな言葉だろうと考えてみると、その手がかりが得られるかもしれません。

1　あなたは日本語の文法を知っていますか

2　日本語にはなぜ挨拶表現が多いのか

3　「すみません」の言外の意味

4　依頼のEメール

日本語　英語　中国語　インドネシア語　スペイン語　ドイツ語

発表の方法▶スピーチ